

歴史学習での地図帳の活用

東京都江戸川区第七葛西小学校 小柳 正浩

1 はじめに

今まで、歴史学習での位置の確認は、教科書や資料集の略地図に頼っていた。実際5年までよく使った地図帳は、6年になって活用する場面が極端に少なくなっている。これではいけないと思い、元寇の学習ごろから、社会の学習用具に地図帳を加え、児童が必要に応じて適時地図帳を開くことができるようにした。

2 地図帳活用の意味

地図帳では、主な歴史地名・事項を四角く青で囲ってある。それが意外に目立つので、関係する地方や県のあるページを開くと児童は容易に見つけることができた。たとえば元寇の学習で北九州を見ると、対馬に「元寇古戦場跡」、福岡糸島半島に「元寇防塁跡」の青い地図記号がある。半島の対岸の志賀島に目を移すと「金印出土地」、南の佐賀県には「吉野ケ里遺跡」の記号が見える。児童はこれらを同時に見ることで、北九州が日本の歴史の上で重要な位置にあったことが直感できたようである。つまり、人物を中心にして点で学んだ学習が、地図帳を使うことによってつながってきたのである。過去の出来事を位置関係でとらえさせる学習も意味があると思われる。

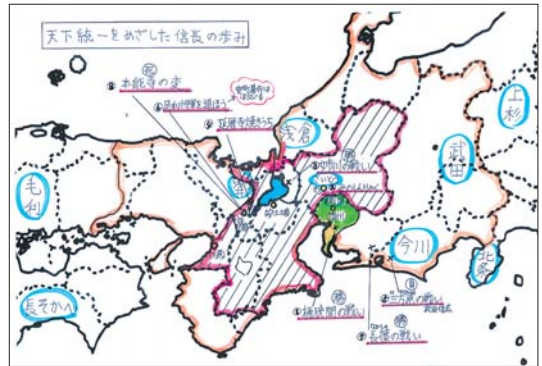


帝国書院「楽しく学ぶ小学生の地図帳」(最新版) p.19①

3 信長天下統一へのあゆみ

信長関連の主な出来事を示した年表、戦国大名の勢力分布図、現在の日本の白地図を用いて天下統一を目指した信長の歩みを追ってみた。

児童は、年表の出来事の順に位置を地図帳で調べ、白地図に地名や合戦名を記入していく。適時、信長の人柄がわかるエピソード等を紹介し合った。



(児童の作成した白地図)

時系列で出来事を追い地図で領地の広がり確かめていく作業は、児童に信長と一体になって戦いながら領地を広げていくイメージを与え、意欲を高めたようである。

児童は作業を通して、桶狭間の合戦は尾張に入っており今川軍がすぐそばまで迫っていたこと、琵琶湖を挟んだ安土城と延暦寺・京都がすぐ近くであること、信長が多くの戦国大名とにらみ合い戦場が転々としていることなどを感覚的にとらえていった。これらは、地図帳を使うことで、より理解が深まった事項であろう。

児童の感想を聞いてみると、「地形や距離など地域の様子がよくわかる。」「信長が小さい領地から日本の半分ほどまで領地を広げていったことがよくわかった。」などの声が多かった。

初めて歴史学習に地図帳を活用してみたが、児童の意欲を喚起し学習の理解を深める一つの方法となりえることを実感した。今後も大いに活用していこうと思う。